

鹿大の女性研究者に
Close-up!

鹿児島大学で研究している女性研究者を紹介します。

山本 智子 教授 (水産学系)



1996年3月 京都大学大学院理学研究科博士課程修了
1996年4月 立命館大学理工学部非常勤講師
1997年4月 海洋科学技術センター
(現海洋研究開発機構) 特別研究員
1998年4月 鹿児島大学水産学部助手
2007年4月 同 准教授
2016年5月 現職

★研究テーマは何ですか？

干潟や磯といった海岸から深海まで海洋の様々な生態系をターゲットに、そこに生息する底生生物(基質に付着する主に無脊椎動物)が種間でどのような相互作用を持ち、環境とどう関わり合っているか、そしてどのようにして多様性が維持されているのかを調べています。

★研究者を目指した理由

中高生の頃は東西冷戦の時代でしたので、政治的な対立がもたらす災いがある事、それは個人の考えや努力とは関係なく降りかかることを知り、人種や国籍、性別、宗教、経歴に関わらず、誰が言おうと正しいことは正しいこととして扱われる世界に魅力を感じました。

★研究の上で苦労されたことはありますか？

研究室でも職場でも、部署でほぼ最初の女性という状況でしたので、物珍しさも手伝って、あまり否定的な見方はされなかったと思います。ただ、自分の振る舞い次第で次に来る女性の扱いが変わるのではないかというプレッシャーは常にあったような気がします。解決法は、「仕事は楽しく」

★日頃のモットー

出すぎた杭は打たれないが、足下がふらついていると抜かれるかもしれないので気をつけよう。

★尊敬する人物とその理由

フランク安田
新田次郎著「アラスカ物語」の主人公ですが、明治時代にアラスカに移住し、エスキモーを率いて不漁が続く沿岸域から内陸へ移住しました。外国人である彼がリーダーとなった要因は絶対的な狩猟技術と交渉力にあったようで、能力を持って人を納得させるところに惹かれます。

★これから研究者を目指そうとする方へのメッセージ

意外と地味で決まり切った作業の繰り返しで、特にこの仕事に向いている「才能」のようなものはないと思います。
最後まで続けることが出来るかどうか、そのことが貴方の行き方として納得できるものかどうかだけがこの仕事につくために必要な条件だと思います。



研究活動中

鹿大の女性研究者に
Close-up!

鹿児島大学で研究している女性研究者を紹介します。

神長 暁子 助教 (理学系)

1994年3月 東京農工大学大学院工学研究科博士前期課程修了
1994年4月 岡崎国立共同研究機構分子科学研究所技官
1998年4月 現職
2004年6月 米国ブランダイズ大学ポスドク研究員
2006年6月 現職



化学反応による空間パターンの例

★研究テーマは何ですか？

「ある値を超えると化学反応が一気に進行する等、エキゾチックな振る舞いを示す非線形化学反応や、化学反応と物質の拡散現象が協同して起こる反応-拡散系における、自発的な時間的および空間的パターンの形成について」です。現在はゲル中での沈殿パターン形成によるリーゼガング現象を主に扱っています。

★研究者を目指した理由

手に職を付けようと、大学は工学部に入学しました。当時は、民間企業での理系女子の採用は多くはありませんでした。学部4年生の時に公務員試験に合格したので、長く続けられる仕事として、研究職を目指しました。大学では、高校理科の教員免許と、学芸員の資格も取りましたので、授業数は多かったです。

★研究の上で苦労されたことはありますか？

非線形反応は、ほんの少しの条件変化で挙動が大きく変わってしまうことが多く、予備実験ではいい結果を得たものの、いざ本腰を入れて取り組むとうまくいかないことも多々あります。実験が軌道に乗ったら、一気に進める、そして時には諦めも肝心です。

★日頃のモットー

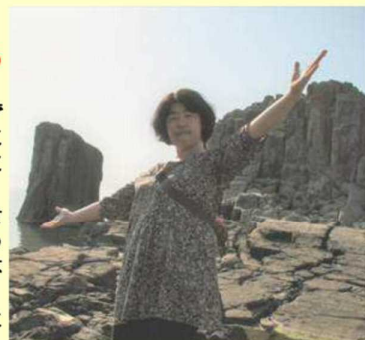
後悔しないために、現時点で最良と思う選択をする。

★尊敬する人物とその理由

1983年にノーベル生理学・医学賞を受賞した細胞遺伝学者バーバラ・マクリントック。「動く遺伝子-トウモロコシとノーベル賞」というインタビューによる彼女の半世紀を読み、不遇の中でも信念を持って研究に邁進した姿に感銘を受けました。

★これから研究者を目指そうとする方へのメッセージ

自分の専門の枠に囚われずに、幅広い知識と教養を身に付け、広い視野を持つように心がけて下さい。長い人生、何が役に立つかわかりません。特に海外に出ようと思う人は、語学だけでなく、日本も含めた世界の歴史や地理、芸術、宗教など、色々なことに興味を持つといいと思います。



パターン形成の一例である柱状節理の聖地、東粵坊にて。旅行先でもパターン形成が気になります。

鹿大の女性研究者に
Close-up!



香西 直子 講師 (農水産獣医学域 農学系)

2006年3月 愛媛大学大学院連合農学研究科 (博士課程) 修了
 2006年4月 香川大学大学院農学研究科 研究生
 2008年4月 国際農林水産業研究センター 特別派遣研究員
 2010年4月 国際農林水産業研究センター 任期付き研究員
 2015年4月 国際農林水産業研究センター 主任研究員
 2016年4月 農業・食品産業技術総合研究機構 果樹茶業研究部門 主任研究員
 2017年7月 鹿児島大学農学部 農業生産科学科応用植物科学コース 講師

★研究テーマは何ですか？

果樹の安定生産に関する研究を行っています。熱帯果樹であるアボカドやマンゴーでは、着花や結実に関して、樹体養分を調べたり、生殖器官の形態観察の調査を行ったりしています。また、温帯果樹であるアーモンドやモモでは、温暖な気象条件下での開花特性などを調べています。

★研究者を目指した理由を教えてください。

大学院生の頃にタイへ6か月間留学し、現地の試験場や農家での調査を経験しました。これをきっかけに、自分が行っている調査がいつか現場の役に立つのだというやりがいに気づき、研究者を目指すようになりました。

★これから研究者を目指そうとする人へのメッセージ

短期間で成果を挙げることも求められる厳しい世界ですが、自分の成果をあげることだけにとらわれず、自分の研究成果を必要としているのはどういう人か、現場でどういうことが問題になっているかを考えられる研究者になってほしいと思います。

★モットー

現場に足を運ぶこと、そして学生や生産者とコミュニケーションをしっかりと取る事を心がけています。デスクワークに追われて実現できないこともよくありますが、時間をうまく使って実行したいと思います。

★研究の上で苦労されたことはありますか？

留学先では、現地の研究職員や学生らと一緒に作業することがありましたが、意見が合わなかったり、コミュニケーション不足から調査が失敗したりすることもありました。こちらが意見を言うだけでなく、相手を理解するコミュニケーションをしっかりと取ることを学びました。



鹿大の女性研究者に
Close-up!



岡本 実佳 ヒトレトロウイルス学共同研究センター
抗ウイルス化学療法学研究分野 准教授

1997年3月 鹿児島大学大学院医学研究科修了
 1997年5月 鹿児島大学医学部附属難治性ウイルス疾患研究センター 非常勤研究員
 2000年5月 ルーバンカトリック大学レガ医学研究所 (ベルギー国) 客員研究員
 2001年5月 鹿児島大学医学部附属難治性ウイルス疾患研究センター 助手
 2002年1月 Medical Research Council Laboratory of Molecular Biology (英国) 客員研究員
 2006年4月 鹿児島大学医学部附属難治性ウイルス疾患研究センター 講師
 2013年4月 鹿児島大学歯学総合研究科附属難治ウイルス病態制御研究センター 准教授
 2019年4月 ヒトレトロウイルス学共同研究センター 鹿児島大学キャンパス 准教授

★モットーは何ですか？

「人事を尽くして天命を待つ」「渡る世間に鬼はない」「人間万事塞翁が馬」

★研究テーマは何ですか？

HIV-1感染症の新規治療法の研究を行っています。最近では、エイズ遺伝子治療法に関する産学官共同研究を行い、ペンシルベニア大学での第Ⅰ相臨床試験実施に至りました。また、HIV-1感染症の根治療法の研究において、HIV-1感染細胞特異的な殺傷効果を有する薬剤を発見し、米国特許を取得しました。

★研究者を目指した理由を教えてください。

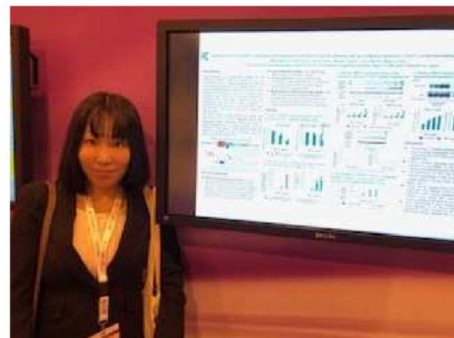
医学部卒業後、大学院に進み、同時に大学病院で医師として働きました。多くの難病の患者さんが懸命な治療の甲斐なく亡くなられる中で、難病の治療法の研究をしたいと次第に思うようになりました。その頃、鹿児島大学の教授になられた馬場昌範先生に、大学院生として受け入れいただき、臨床から基礎研究の道に進みました。

★研究の上で苦労されたことはありますか？

上原生命科学記念財団より留学助成を得て、ルーバンカトリック大学レガ医学研究所へ留学しましたが、研究費の少ない研究室に配属されたため、大変苦労しました。最初は途方に暮れるばかりでしたが、腹を括って拙い英語で交渉し、また、少ない実験材料でも出来る実験を考え行うなどして、何とか研究を進めました。

★これから研究者をめざそうとする人へのメッセージ

研究者は誰にでもお勧めはできません。しかし、研究アイデアを検証出来た時の達成感他では得られないものです。また、知識欲を満足させ、常に新しいことを追求するため飽きることはありません。このようなことに魅力を感じる方には是非、研究者として活躍していただきたいと思います。



第28回欧州臨床微生物学感染症会議 (2018年) ポスター発表

鹿大の女性研究者に
Close-up!

濱田 百合子 共同学系 環境安全センター 助教

- 2010年3月 鹿児島大学大学院理工学研究科生命物質システム専攻 博士後期課程単位取得退学
- 2010年4月 鹿児島大学廃液処理室 特任助教
- 2010年9月 鹿児島大学大学院理工学研究科 博士(理学)取得
- 2015年4月 鹿児島大学学術研究院学内共同教育研究学域学内共同教育研究学系 廃液処理センター 助教(改組)
- 2017年4月 鹿児島大学学術研究院総合科学域共同学系 研究推進機構 研究支援センター 環境保全施設 助教(改組)
- 2019年4月 組織改組により現職

☆研究のテーマは何ですか？

学生時代から大気中水銀のバイオモニタリング(生体に蓄積した水銀量と大気中水銀濃度との関係性を利用した大気中水銀レベルの長期的評価)方法に関する研究を続けています。もともと生き物と環境とのかかわりについて研究したいという思いがあったので、この研究テーマは自分のライフワークだと思っています。“水銀”という特殊な物質をターゲットにしたため、水銀の環境動態や分析法に係る研究も行っています。水銀廃液の減容化に関する研究や、実験排水管理に関する研究など、所属する環境安全センターの業務に関連した研究も行なっています。

☆研究者を目指した理由を教えてください。

新しい発見や問題の解決に魅力を感じ、研究者を目指しました。



国際学会(2015年 韓国)

水銀研究の第一人者であるミレナ・ホルバット氏(左から2人目)から、研究者を目指すきっかけについて聞くことができた。

☆モットーは何ですか？

「変化を楽しむ」です。

☆研究の上で苦労されたことはありますか？

私には現在3歳と0歳の子供がいます。育児と研究の両立はなかなか難しいのですが、家族や職場の人々の協力と理解を得、学内の保育園や研究支援員制度などを利用して乗り切っています。妊娠前は一日12時間以上研究室にすることが普通で、学会や調査のために国内出張を年10回ほど、海外出張にも年2~3回行っていました。出産後は、研究時間は半分に、出張は国内のみで年3回程度に減りました。研究活動は中断したくないので、「今できることをする」を積み重ねて進めています。育児がひと段落するであろう10年後、20年後には「こんな研究をしたいな…」とこっそり夢を膨らませています。



通勤時の様子

☆これから研究者を目指そうとする人へのメッセージ

学生のうちは幅広くいろいろな知識を吸収し、体験するようにしてください。そして、やりたいことがあるなら、まずはチャレンジしてみてください。

鹿大の女性研究者に Close-up!



実験操作指導中

千葉 紀香 医歯学域歯学系 発生発達生育学講座 口腔生化学分野
助教

2007年4月 名古屋大学大学院医学研究科 博士(医学)取得
2007年4月 鹿児島大学大学院医歯学総合研究科 客員研究員
2007年6月 同上 技能補佐員
2009年1月 Cedars-Sinai Medical Center (Pediatric Infectious Diseases),
Postdoctoral Researcher
2013年6月 Cedars-Sinai Medical Center (Lung and Regenerative
Medicine), Postdoctoral Researcher
2014年1月 同上、Project Scientist
2017年9月 現職

★研究テーマは何ですか？

主として骨形成に関わる骨芽細胞の細胞内シグナルの解析や、生体防御におけるマスト細胞の役割の解析などに取り組んでいます。

★研究者を目指した理由を教えてください。

正直なところ、特別に高い志があったわけではありません。「研究者ってカッコいいじゃん!」という、ヒーローに憧れる子どものように至極普通の理由で目指した道でした。ただし、外から見たら美しい富士山も実際は非常に険しく困難であると、登山を始めてから気付くのと同じようだと思います。

★研究で苦労されたことと

解決法を教えてください。

仕事で苦労した話は山ほどありますが、研究に限った話ではないように思います。いわゆる「お勉強」とは異なり、聞けば説明してくれる先生がいるわけではありません。自己を研鑽し事実を積み上げ、現象の真に近付く道をひたすら探す。ただし闇雲にではなく、先達による知識を灯火として進むことです。苦労した先に、研究のピースがカッチリ填った時の喜びが待っていることを思い出しながら。

★モットーは何ですか？

「Nothing seek, nothing find」「知的好奇心の賦活」「温故知新」です。研究だけではなく多方面において重要なことだと思っています。また、勉強することの意味についての太宰治の作品中の言葉は、まったくその通りだと沁みます。

★これから研究者をめざそうとする人への メッセージ

研究の世界は広大で、そして同時に非常に狭いものです。専門的知識や理論的思考力または発想力はもちろん重要ですが、同じくらいに教養や人間性というものが大切になります。日本にしようが海外にしようが、自分勝手に無責任なつまらない人という仕事が出来るとは思われないものです。まずは専門内外の知識や人間性の裾野を広げることです。最終的にどこに辿り着くにしろ、それらは無駄にはなりません。あとはやっぱり体力。



2016年、当時の職場のハロウィーンパーティーにて同僚と。ヨーダが私。AT-ATやR2D2は段ボールやバスケットなどを用いて数人で、ベイダーとオビ=ワンのビームサーベルは私が手作りしました。最優秀グループ賞に選ばれたのは嬉しかったです。

鹿大の女性研究者に
Close-up!

大野 幸 講師 (鹿児島大学病院 全身管理歯科治療部)

2012年3月 鹿児島大学大学院医歯学総合研究科 歯科麻酔全身管理分野
博士課程 博士(歯学)取得
2012年4月 鹿児島大学医学部・歯学部附属病院 全身管理歯科治療部 助教
2016年12月~2017年3月
大阪大学大学院 歯学研究科 口腔時間生物学科 招聘教員
2020年4月 鹿児島大学病院 全身管理歯科治療部 講師

★研究テーマは何ですか？

自分は歯科医師ですが、臨床では口腔外科手術や歯科治療時の全身麻酔をかけることが主な仕事です。全身麻酔に携わるにあたり、「人の意識」はどうやって生み出されているのだろうか？という疑問から、大学院時代は京都大学に国内留学し脳の局所回路の研究に専念しました。その後、縁あって大阪大学にて体内時計の研究をする機会に恵まれた関係で、現在ではこれらの経験を生かしつつ、日々の臨床にフィードバックできるような研究を大学院生と共に行っています。



★研究で苦労することはありますか？

臨床系の教室に所属しているため、基礎実験のためのセットアップをすることがとても大変でした。研究環境が整った場所では当たり前に行えることも、ひとたび場所が変わればこうも出来なくなるのか、と何度も感じました。他所で学んだ手技・手法を導入する際には、とにかく事細かにメモや写真に残し、できるだけ詳細な情報を持ち帰るように心がけています。

★研究者をめざそうとする人へのメッセージ

研究者を目指そうと身構えるよりも、今興味のあることを一つ一つ突き詰めて考えて形にしていく過程を楽しんで下さい。

★モットーは何ですか？

急がば回れ：慌てそうになる時ほど自分に言い聞かせるようにしています

腹八分目：本来は満腹まで食べない方が健康にいいといった意味かと思いますが、何事も完璧にやらない方が返っていいと拡大(歪んだ)解釈をしています。時には家事をサボる言い訳にも・・・。

★研究者を目指した理由を教えてください。

これまで確たる信念を持って研究者を目指していた訳ではなく、与えられた機会の中で自分の興味あることを続けてきた結果、今日に至ったというのが正直なところです。今回の「女性研究者にClose-up!」のお話を頂いて、自分は研究者でもあるのだな、と改めて認識したほどです。ただ振り返ると、ある疑問について仮説を立てて検証し、1つのストーリーにまとめるという作業は、小学生の頃から科学クラブに通って行っていたので、その頃から潜在的に研究というもの好きだったのかも知れません。



第26回日本時間生物学学会(金沢)にて
(右から2番目が大野先生)

鹿大の女性研究者に
Close-up!



鹿児島大学附属図書館の貴重書庫にて

金井 静香 法文教育学域法文学系 教授

1997年3月 京都大学大学院文学研究科博士後期課程国史学専攻 修了
博士(文学)
1997年4月 日本学術振興会特別研究員 (PD)
1997年8月 鹿児島大学法文学部助教授
2007年4月 鹿児島大学法文学部准教授
2015年4月 現職

■現在の研究テーマについて教えてください

大学・大学院以来の研究テーマは中世の荘園についてですが、特に荘園領主である公家に関する研究をしてきました。一方で、本学教員として、鹿児島の歴史に関しては時代や対象をあまり限定せずに調査・研究してきました。その両方の研究を行ってきた結果として取り組むようになった研究テーマもあります。例えば、中世～近代における女性たちの働きに関する研究がそれにあたると思います。

■研究者を目指した理由や、

研究者としてのやりがいなどを教えてください

日本史の研究とは、史料に基づいて過去の日本の実態を解明していくものですが、史料を探したり、史料によって明らかになったことを文章化したりしていく作業は、私に向いているようです。

日本史は、私たちが生きている社会と直結している学問分野です。自分たちを取り巻く世界が迎ってきた歴史をふまえないと、次に自分たちが為すべきことや出来ることが見えてこない場合もあります。したがって、日本史はやりがいのある研究分野だと思っています。

■苦労話やその解決法などを教えてください

日本史の論文に掲載する数点の史料を見つけるためには、とにかく多数の古記録や古文書を調べる必要があります。まだ活字化されていない史料の中身を確認するために、遠方にある史料所蔵機関などに赴くこともあります。忙しい日々の中でそうした史料探しの時間を確保することは容易ではなく、そこが苦労するところです。インターネットなども活用して、できるだけ効率的に史料収集を行うよう努めています。

■日頃のモットーを教えてください

「目の前のことを一つずつ」です。やらなければならないことが多過ぎてとても対処できないと思うときは、とにかく優先順位の高いと思われるものから順次処理するようにしています。そうこうしているうちに、少し心の余裕が取り戻せるような気がします。

■これから研究者をめざそうとする方への

メッセージ

日本史の研究は、史料を保存してくれた人やそれを公開してくれた人、研究発表に対して意見を述べてくれた人など、様々な方々の支えや協力があって初めて出来るものです。これから研究者をめざす方々には、自分の研究課題を見つけてそれに取り組むとともに、他者の研究にも関心を持ち、自分が学界や社会に対して出来ることについても考えてみてください。



平成29年度鹿児島大学附属図書館貴重書公開

「女性たちの明治維新」のポスターや図録に掲載した楊洲周延「踏舞會 上野櫻花観遊ノ圖」

(鹿児島大学附属図書館所蔵)

鹿大の女性研究者に
Close-up!



鹿児島大学は、女性研究者比率の増加を目標に掲げ、ダイバーシティ研究環境整備に取り組んでいます。本誌では、次世代へのロールモデルとして、また、今後の活躍に期待して、本学で研究している女性研究者を紹介しています。

片岡 美華 准教授 法文教育学域教育学系（障害児教育学）

2006年3月 The University of Queensland Doctor of Philosophy- Special education修了・学位取得(P.h.D-教育学)
2005年9月～2007年3月 奈良佐保短期大学 非常勤講師
2006年4月～2007年3月 武庫川女子大学・同短期大学 非常勤講師
2007年4月～2009年3月 鹿児島大学教育学部 講師
2008年4月～2014年3月 鹿児島大学大学院教育学研究科 研究指導補助教員
2014年4月～ 鹿児島大学大学院教育学研究科 研究指導教員
2009年4月～2015年3月 鹿児島大学教育学部 准教授
2015年4月～ 鹿児島大学学術研究院法文教育学域教育学系 准教授

■研究テーマについて教えてください。

現在の研究テーマは「発達障害のある人のセルフアドボカシー（自己権利擁護）」です。障害のある人がインクルーシブ社会で自立して生きていくときに、「〇〇はできるのですが、△△が難しいので助けてください!」と言えることが大切だと思います。そのために自分で自分のできることや困難さがわかること（自己理解力）、人に助けを求めたり、必要なことを伝えていったりすること（提唱力）を身に付けられるよう、発達段階や障害特性に応じてどのように教育していけばいいかについて研究しています。また、受け止める側の障害理解もテーマに含めています。



Glasgowでの学会にて姉弟子との再会

■研究者を目指した理由、研究者としてのやりがいなどについて教えてください。

先生になりたくて入学した大学で、障害児教育と出会い、何もかもが初めてで新鮮でした。中には未だ説明されていないこともあり、5歳児のような「なぜ?どうして?」という疑問ばかりでした。それを少しでも解決したくて大学院に入り、そのまま研究者の道につながりました。修士課程の時に苦手な英語を克服するためにスクールインターンシップというプログラムでオーストラリアに行き、その後クィーンズランド大学の博士課程に入ることになりました。英語への苦手意識はなくなりませんが、度胸と友人を得ました。それらが研究にも活かされており、国際学会への参加が楽しみの一つです。

■苦労話やその解決法などがあれば教えてください。

なかなか研究一筋とはいかず、自分の専門って何だろう?と自問しながら「障害と発達」をキーワードに保育園から大学まで出かけていき、対象児の実態把握や教員・保護者等への助言をしています。指導・支援には必ずしも答えがあるわけではないですが、相手の思いを想像し、理論と照らし合わせて多くの選択肢を示せるように努めています。ただ最近はい自分子どもや自分の姿と重ねてしまって「私もできてないだけかなあ」と歯切れの悪さを感じることもよくあります。

約4年間の育休からの復帰と同時に遠隔授業が始まったので、授業内容・方法のアップデートが大変でした。今も育児と仕事の両立に苦労しています。学内の支援制度や同僚の気遣いに感謝しつつも、急な対応にあたふたする日々です。

■日頃のモットーがあれば教えてください。

「やらずに後悔するよりもやってから後悔するほうが良い」迷ってばかりなのですが、最終的には「一度は経験!」とやってみるようになっています。

■これから研究者をめざそうとする方へのメッセージをお願いします。

研究者と言えども、研究以外の業務も含めていろいろなことが求められるようになっていきます。それを楽しむまではいなくても、研究へのヒントとなることもあります。人生にムダはなし、と挑戦し、経験を積んでほしいと思います。また国際的なことにも目を向けて広い視野で柔軟に考えられる力が付くよう意識するとよいのではないのでしょうか。



留学先のクィーンズランド大学 (オーストラリア)



IASSIDD 2019 in Glasgowでのポスター発表の様子

